

2018年度第2四半期決算

取締役 兼 執行役員専務 財務・調達本部長
荻原 弘之

2018年11月1日
古河電気工業株式会社

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

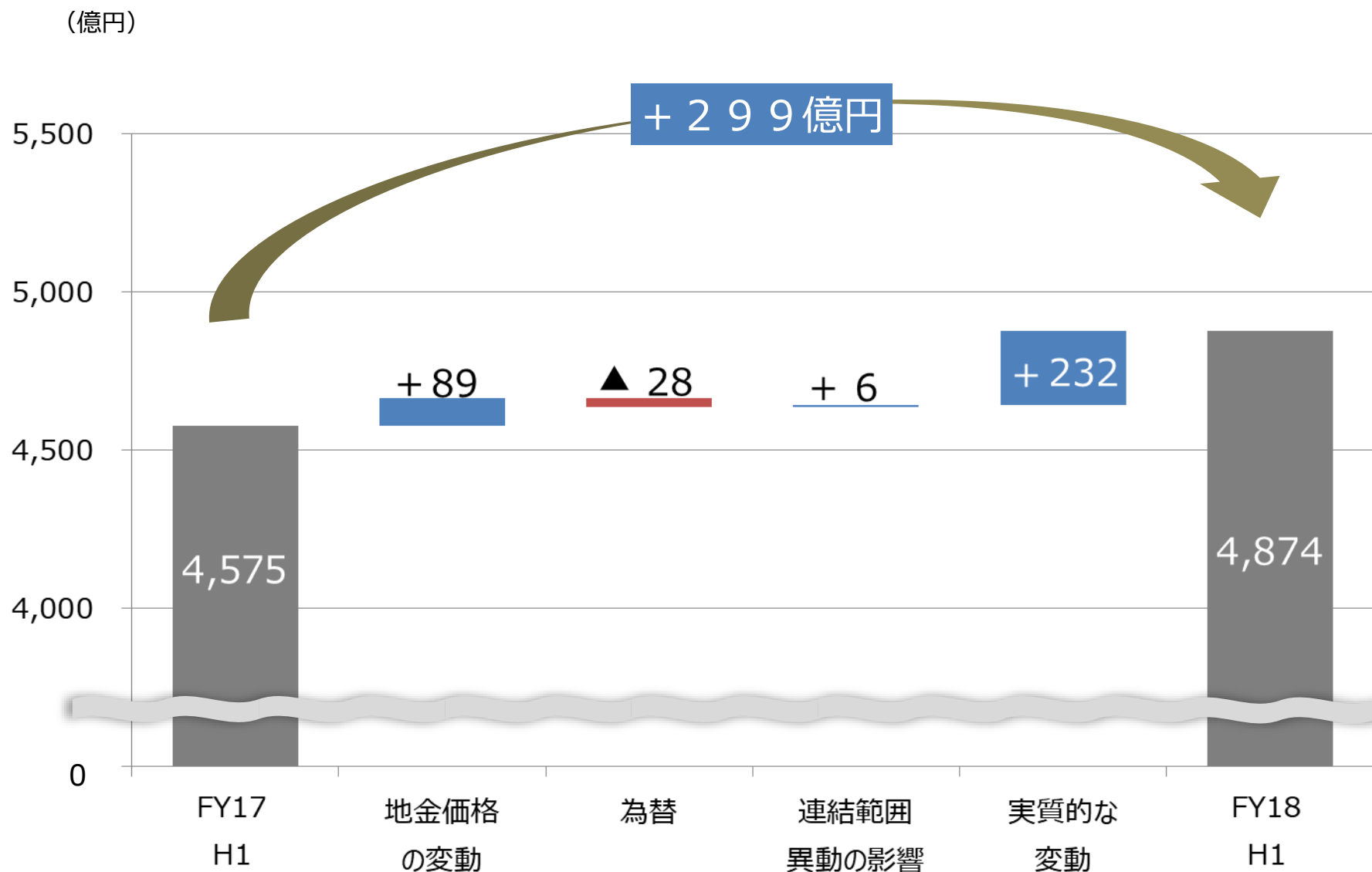
2018年度上半期実績－要約P&L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

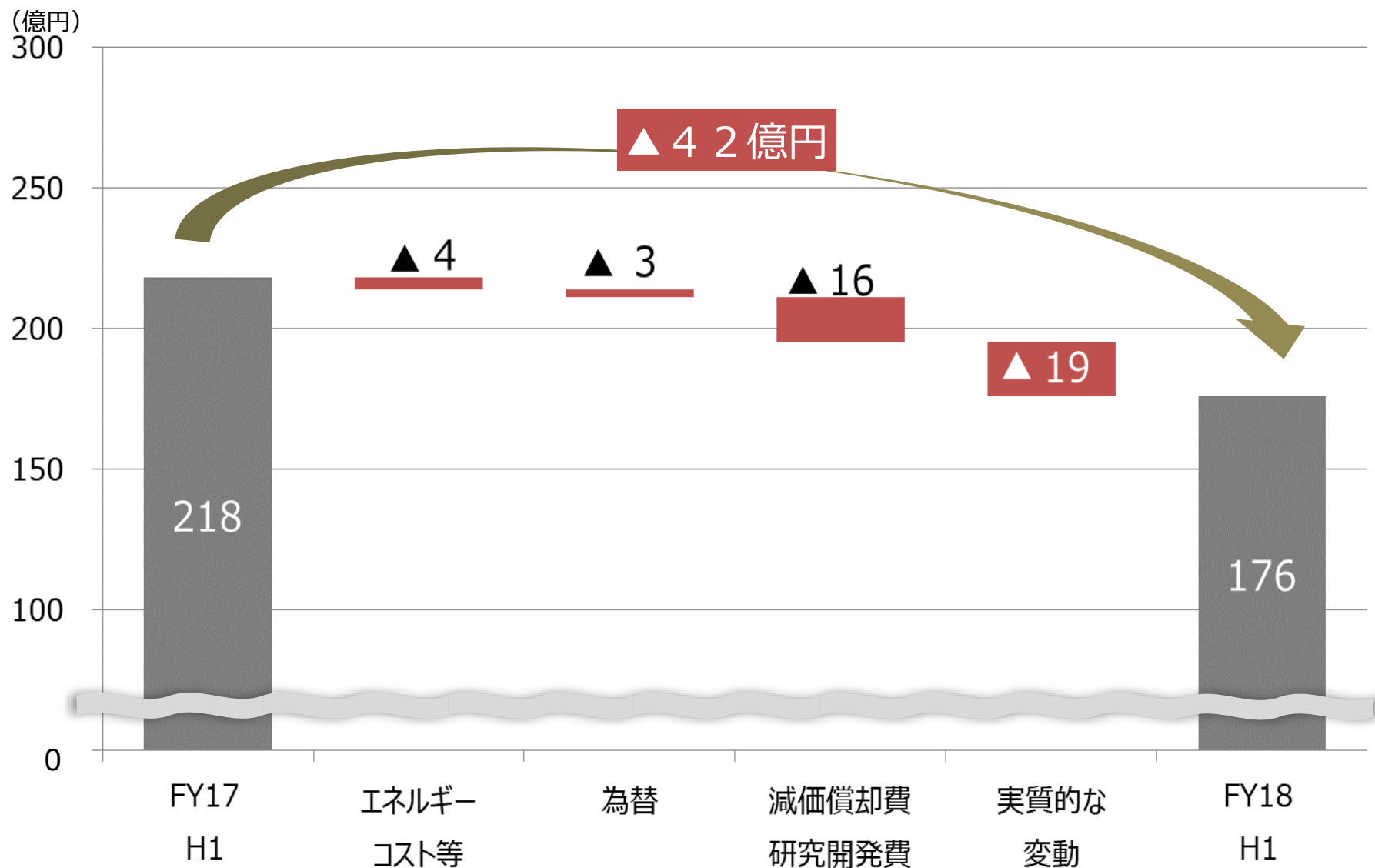
	FY17 H1実績	FY18 H1実績	前年差	主な増減内訳
	a	b	b-a	
売上高	4,575	4,874	+299	5ページ参照
営業利益	218	176	▲42	6ページ参照
(率)	4.8%	3.6%	▲ 1.2	
持分法投資損益	20	4	▲16	
為替損益	▲6	▲6	+0	
経常利益	221	159	▲62	
(率)	4.8%	3.3%	▲ 1.6	
特別損益	61	▲12	▲73	・特別利益：▲54 (70→16) ・特別損失：▲19 (▲8→▲27)
法人税等	50	33	▲17	
非支配株主に帰属する 当期純利益	16	15	▲0	
親会社株主に帰属する 当期純利益	217	98	▲119	
(率)	4.7%	2.0%	▲ 2.7	
銅建値 平均	709	760	－	
為替 平均	111	110	－	

Intentionally Blank

売上高の増減要因（前年比）



営業利益の増減要因（前年比）



2018年度上半期実績 –セグメント別売上高および営業利益

(単位：億円)

		H1		
		* FY17 実績	FY18 実績	前年差
売上高	インフラ	1,416	1,392	▲ 24
	情報通信ソリューション	916	909	▲ 7
	エネルギーインフラ	500	483	▲ 17
	電装エレクトロニクス	2,483	2,768	+286
	自動車部品・電池	1,140	1,274	+134
	電装エレクトロニクス材料	1,343	1,495	+152
	機能製品	745	783	+38
	サービス・開発等	247	232	▲ 15
	連結消去	▲ 316	▲ 301	+15
	連結合計	4,575	4,874	+299
営業利益	インフラ	78	23	▲ 54
	情報通信ソリューション	80	61	▲ 18
	エネルギーインフラ	▲ 2	▲ 38	▲ 36
	電装エレクトロニクス	73	77	+5
	自動車部品・電池	49	48	▲ 0
	電装エレクトロニクス材料	24	29	+5
	機能製品	70	75	+5
	サービス・開発等	▲ 2	▲ 0	+2
	連結消去	0	0	+0
	連結合計	218	176	▲ 42

* FY18よりセグメント間での一部事業の移管、本部費の配賦方法の変更を行ったため、FY17の実績値を5月9日公表時点より変更

2018年度上半期実績 – 要約 B/S

(単位：億円)

	FY17Q4末	FY18Q2末	増減
	a	b	b-a
流動資産	4,162	4,183	+21
現金及び預金	506	479	▲ 27
受取手形及び売掛金	2,243	2,198	▲ 45
たな卸資産計	1,138	1,256	+118
固定資産	3,924	3,973	+49
有形固定資産	2,167	2,241	+73
無形固定資産	113	99	▲ 14
投資その他の資産	1,644	1,633	▲ 11
資産合計	8,086	8,156	+70
流動負債	3,303	3,233	▲ 70
固定負債	2,062	2,174	+112
負債合計	5,366	5,407	+42
株主資本	2,192	2,238	+47
その他の包括利益累計額	173	179	+5
非支配株主持分	356	331	▲ 24
純資産合計	2,721	2,749	+28
負債純資産合計	8,086	8,156	+70
有利子負債	2,585	2,638	+53
自己資本比率	29.2%	29.6%	+0.4
NET D/Eレシオ	0.88	0.89	+0.01

たな卸資産：118億円増加

下期売上計上予定のプロジェクト・工事案件等の影響による

有利子負債：53億円増加

主に設備投資に伴う
キャッシュアウトの増加による

2018年度通期予想見直し

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY17 実績	FY18 前回予想	FY18 予想	前年差	前回予想差
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	9,673	10,000	9,800	+127	▲ 200
営業利益	448	430	400	▲ 48	▲ 30
(率)	4.6%	4.3%	4.1%	▲ 0.6	▲ 0.2
持分法投資損益	43	—	—	—	—
為替損益	▲ 12	—	—	—	—
経常利益	469	435	400	▲ 69	▲ 35
(率)	4.8%	4.4%	4.1%	▲ 0.8	▲ 0.3
特別損益	▲ 64	▲ 80	▲ 80	▲ 16	—
法人税等	82	—	—	—	—
非支配株主に帰属する 当期純利益	38	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	285	230	200	▲ 85	▲ 30
(率)	3.0%	2.3%	2.0%	▲ 0.9	▲ 0.3
銅建値 平均	757	800	730		
為替 平均	111	105	110		

2018年度通期予想見直し—セグメント別売上高および営業利益

(単位：億円)

	通期					
	* FY17 実績	FY18 前回予想	FY18 予想	前年差	前回予想差	
売上高	インフラ	2,934	3,200	2,900	▲ 34	▲ 300
	情報通信ソリューション	1,913	2,100	1,850	▲ 63	▲ 250
	エネルギーインフラ	1,021	1,100	1,050	+29	▲ 50
	電装エレクトロニクス	5,338	5,500	5,550	+212	+50
	自動車部品・電池	2,481	2,500	2,600	+119	+100
	電装エレクトロニクス材料	2,856	3,000	2,950	+94	▲ 50
	機能製品	1,531	1,550	1,550	+19	0
	サービス・開発等	510	500	500	▲ 10	0
	連結消去	▲ 639	▲ 750	▲ 700	▲ 61	50
連結合計	9,673	10,000	9,800	+127	▲ 200	

営業利益	インフラ	124	120	75	▲ 49	▲ 45
	情報通信ソリューション	140	150	120	▲ 20	▲ 30
	エネルギーインフラ	▲ 16	▲ 30	▲ 45	▲ 29	▲ 15
	電装エレクトロニクス	184	175	180	▲ 4	+5
	自動車部品・電池	132	120	120	▲ 12	0
	電装エレクトロニクス材料	51	55	60	+9	+5
	機能製品	140	135	145	+5	+10
	サービス・開発等	▲ 0	0	0	+0	0
	連結消去	1	0	0	▲ 1	0
連結合計	448	430	400	▲ 48	▲ 30	

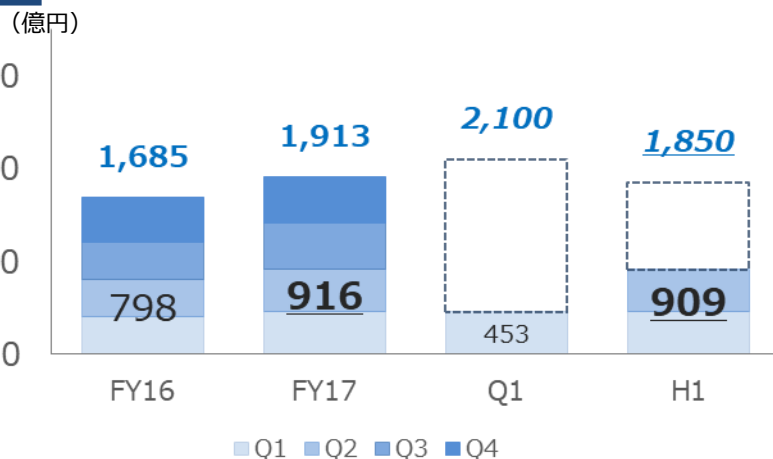
* FY18よりセグメント間での一部事業の移管、本部費の配賦方法の変更を行ったため、FY17の実績値を5月9日公表時点より変更

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

(事業部門：ファイバ・ケーブル、ファイテル製品、ブロードバンドソリューション)

＜営業利益の増減内容・取り組み＞

売上高

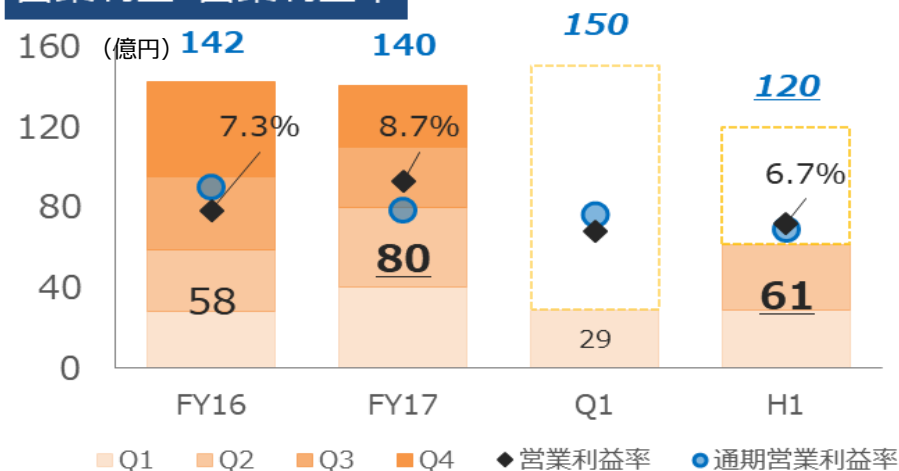


H1実績：前年差 ▲18億円

□：増益要因 ■：減益要因
✓：注力ポイント

- 北米光ケーブル、デジタルコヒーレント関連製品は、好調だった前年同期水準までは回復せず
- 研究開発費、償却費の増加
- 光ファイバ出荷量は増加
- 国内ネットワークシステム関連製品は好調

営業利益・営業利益率



H2予想

- ファイバの増産効果は見込むも、北米光ケーブルはH1並み
- デジタルコヒーレント関連製品は、H1比で回復
- 産業用レーザーの寄与
- ✓ 細径超多芯ファイバケーブル（ローラブルリボンケーブル）等の拡販
- ✓ ファイバ・ケーブル設備投資計画の着実な実行
- ✓ 市場ニーズに応えるための製品開発と上市促進

青：通期 売上・営業利益

黒：H1 売上・営業利益

1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

売上高

(事業部門：電力、産業電線・機器)

＜営業利益の増減内容・取り組み＞

H1実績：前年差 ▲36億円

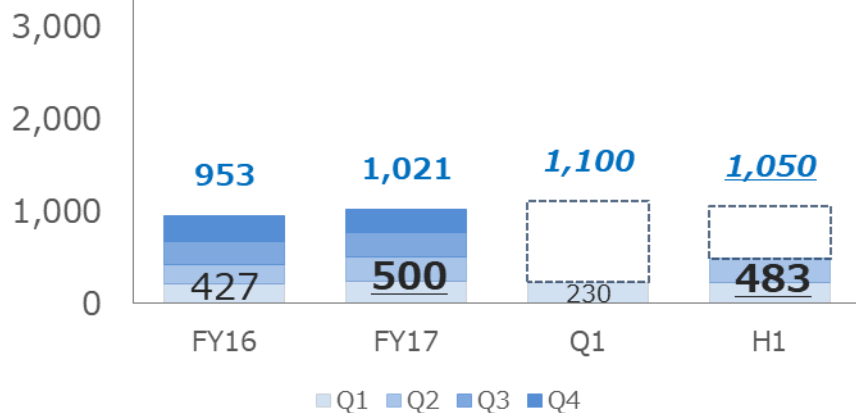
□：増益要因 ■：減益要因
✓：注カポイント

- 新エネルギー受注案件の工事損失引当金を計上
- 国内電力工事案件が寄与した前年に対し、低採算の海外地中線案件の影響
- 国内産業電線の減収

H2予想

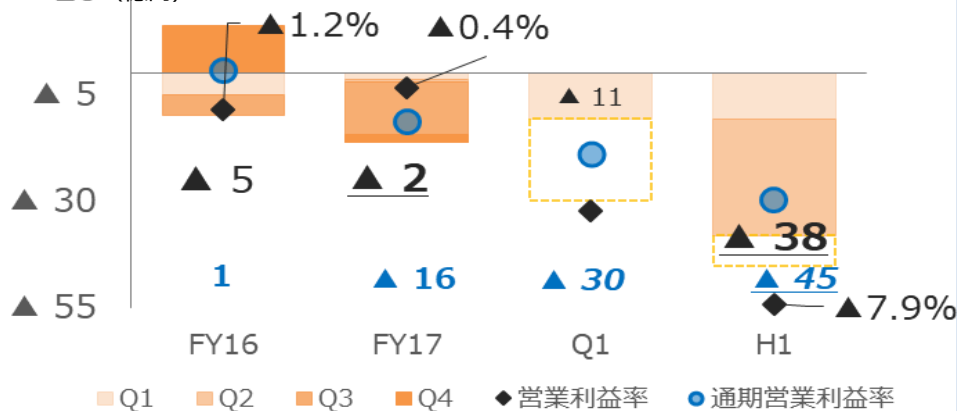
- 海外関係会社は下期回復傾向
- H2は国内のOFからCVケーブルへの置き換えがスタートするも、想定より遅れ気味
- ✓ 工事施工能力および海底線対応設備の増強
- ✓ 国内超高压、新エネ案件等の獲得
- ✓ 建設・電販向け低圧アルミCVケーブルの早期立ち上げ

(億円)



営業利益・営業利益率

(億円)



青：通期 売上・営業利益

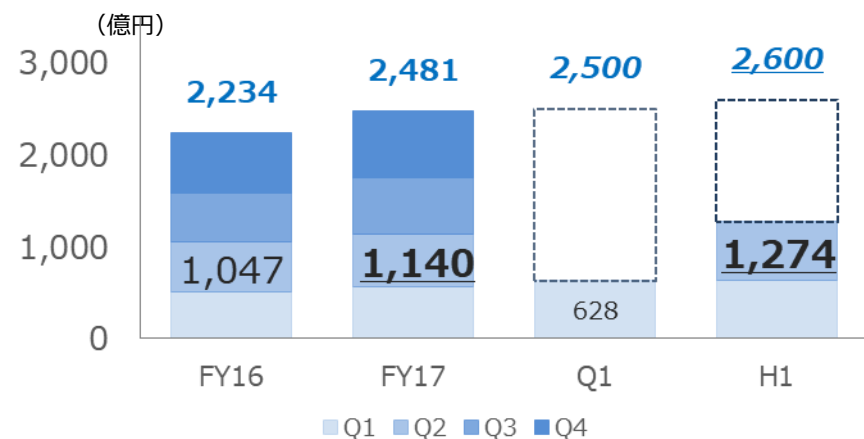
黒：H1 売上・営業利益

2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池) FURUKAWA ELECTRIC

売上高

(事業部門：自動車部品、電池)

<営業利益の増減内容・取り組み>

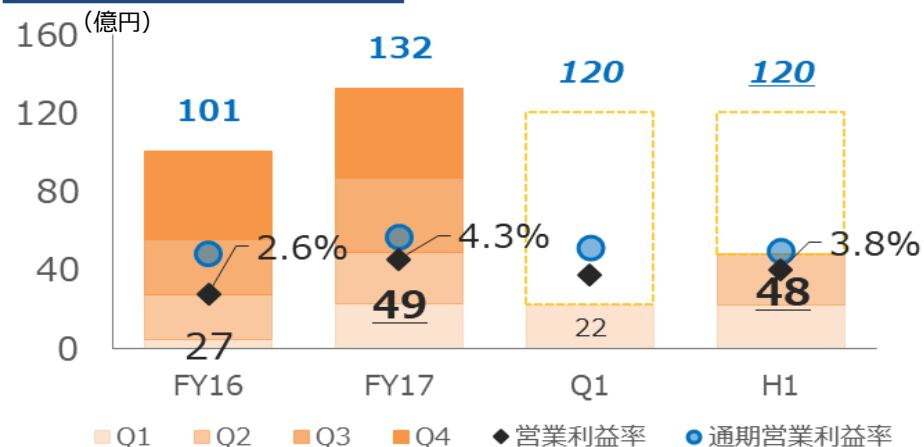


H1実績：前年差 ▲0億円

□：増益要因 ■：減益要因
✓：注カポイント

- ワイヤハーネスの売上は引き続き好調
- ワイヤハーネスの品種構成差により利益率低下
- 20年度以降の案件に向けた、研究開発費、償却費等の固定費増加

営業利益・営業利益率



H2予想

- ワイヤハーネスの売上は引き続き堅調
- ✓ 先進運転支援システム関連として、次期高精度レーダの車載評価開始および、20年型高機能BSSの完成
- ✓ 電動化・自動運転化の進展によるアルミハーネス等軽量化需要の積極的取り込み
- ✓ 北米向けワイヤハーネス拡大に向けた、フィリピン製造拠点の拡張

青：通期 売上・営業利益

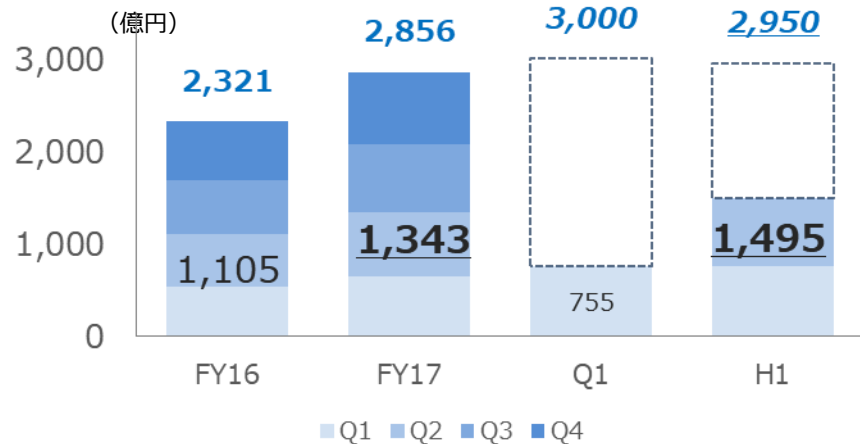
黒：H1 売上・営業利益

2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

売上高

(事業部門：導電材、巻線、銅条・高機能材、銅管)

＜営業利益の増減内容・取り組み＞

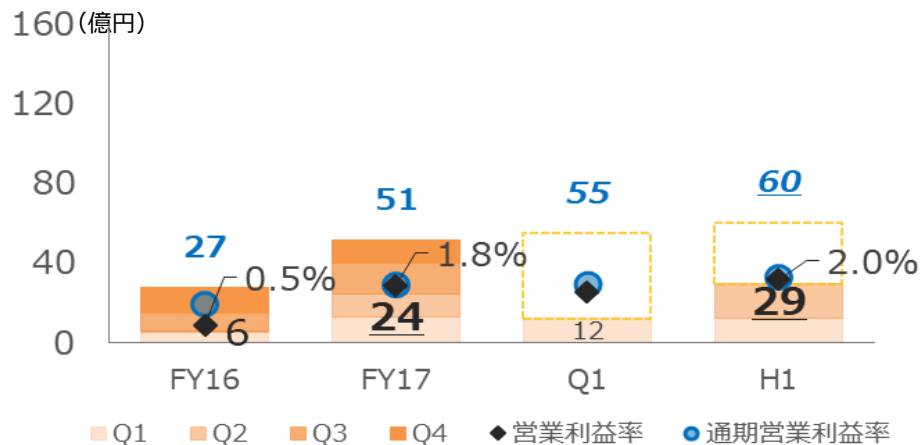


H1実績：前年差 +5億円

□：増益要因 ■：減益要因
✓：注カポイント

- 巻線は、自動車部品用途が堅調
- 伸銅製品は、一部製品の在庫調整による数量減はあるも、製品ミックスの改善等が奏功

営業利益・営業利益率



H2予想

- 概ねH1並みの推移を見込む
- ✓ 市場ニーズに合わせた製品ミックス改善と、生産性向上
- ✓ 電子機器の高機能化に対応する新合金の導入
- ✓ 自動車用巻線の採用車種拡大および海外市場での拡販推進

青：通期 売上・営業利益

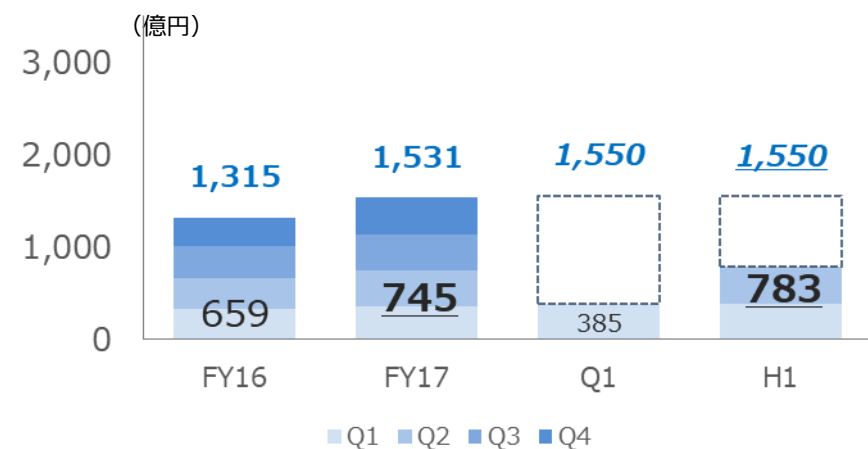
黒：H1 売上・営業利益

3 機能製品

売上高

(事業部門：AT・機能樹脂、サーマル・電子部品、メモリーディスク、銅箔)

<営業利益の増減内容・取り組み>

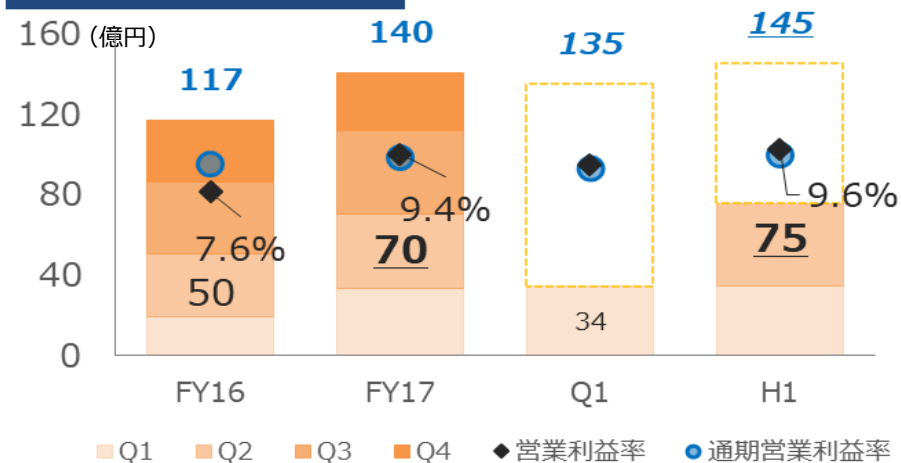


H1実績：前年差 +5億円

□：増益要因 ■：減益要因
✓：注カポイント

- 銅箔は、旺盛な需要環境のもと、製品ミックスの改善が寄与
- メモリーディスクは、データセンタ向け需要が堅調で増収

営業利益・営業利益率



H2予想

- 主にデータセンタ向け需要に支えられ、引き続き堅調に推移
- ✓ 市場ニーズに合わせた製品ミックス改善と、生産性向上
- ✓ 新規市場開拓・新用途の提案
- ✓ 次世代品の開発

青：通期 売上・営業利益

黒：H1 売上・営業利益

ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***